

岩手県内の野生いのししにおける豚熱ウイルスの感染状況

岩手県中央家畜保健衛生所

平成30年9月、岐阜県の養豚場で、国内では26年ぶりとなる豚熱が発生しました。原因である豚熱ウイルス(CSFV)は、海外から不法に持ち込まれ廃棄された汚染肉製品を介して野生いのししに感染・拡散し、養豚場の豚に感染したと考えられています。野生いのししの感染は東西に拡大し、令和2年9月には福島県、12月には山形県、令和3年6月には宮城県において確認され、令和4年4月には本県で初めて、一関市において、同ウイルスに感染した野生いのししが確認され、これまで3市3町に広がっています。

現在のところ、本県の養豚場で豚熱の発生はありませんが、依然としてリスクの高い状況は継続しており注意が必要です。以下にこれまでの検査の概要を報告します。

1 県内の野生いのししの検査状況

岩手県では令和元年以降、死亡いのしし11頭、捕獲いのしし716、計727頭のCSFV検査を実施しました(R4.7.21現在)。野生いのししの臓器や血液を用いたリアルタイムPCRにより同ウイルスの遺伝子を検出しています。

令和3年度までに検査した536頭については、いずれもCSFV遺伝子は検出されませんでした。しかし、令和4年4月20日に一関市で捕獲された個体から、初めてCSFV遺伝子が検出されました。これまでに、岩手県では34頭の感染いのししが確認されています。これらの捕獲位置は、一関市の西磐井地区とその近隣の平泉町及び奥州市に集中していましたが、5月には北上市、7月には紫波町及び雫石町においても、捕獲された個体で感染が認められ(表)、感染の北上が確認されています。

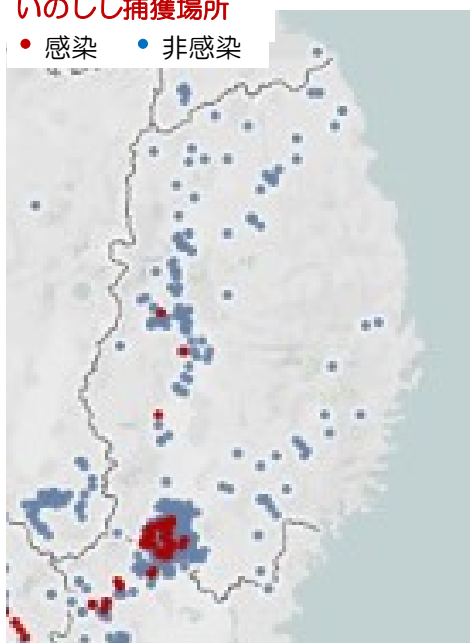
2 全国の感染状況

全国的には、初期に野生いのししの感染が多く認められた岐阜県・愛知等県の地域では、現在、検査頭数に対する感染率が低くなっています。他方、岩手県、宮城県、山形県、福島県、栃木県、兵庫県、和歌山県のほか、山口県で感染個体が増加しています(図)。

野生いのししの感染が多数確認されている地域では、感染いのししがウイルスを排出し、環境中のウイルス量が増えているため、ワクチン接種農場であっても、本病が発生する場合があります。本病の発生防止対策として、野外のウイルスを養豚場内に侵入させないための衛生管理の徹底が重要であり、より危機感をもった対応が必要です。

いのしし捕獲場所

● 感染 ● 非感染

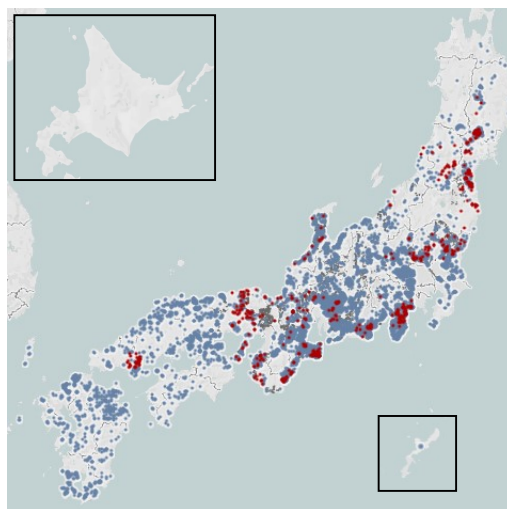


岩手県の検査状況

(~令和4年7月21日検査分)

市町村	CSFV 遺伝子陽性 / 検査頭数 (陽性率)
一関市	26/90 (29%)
奥州市	4/38 (11%)
平泉町	1/10 (10%)
北上市	1/1 (100%)
花巻市	0/2
紫波町	1/4 (25%)
矢巾町	0/4
盛岡市	0/3
滝沢市	0/3
宮古市	0/2
雫石町	1/15 (7%)
葛巻町	0/2
岩手町	0/2
八幡平市	0/12
洋野町	0/3
合計	34/191 (18%)

令和4年度県内市町村別検査状況
(7月21日現在)



全国の検査状況
(R4.1.1~7.19 捕獲分)